

青少年のための科学の祭典姫路会場大会2012 実施報告

1 大会概要

大会名 青少年のための科学の祭典姫路会場大会2012
 開催日 平成24年8月11日(土)、8月12日(日)
 会場 兵庫県立大学姫路書写キャンパス
 主催者 青少年のための科学の祭典・姫路会場実行委員会 他
 その他 子どもゆめ基金(独立行政法人国立青少年教育振興機構) 助成活動

2 事業の成果

小学生、中学生を中心として、高校生、大学生そして付き添いの父母および教師を合わせて、多くの参加者が、対話式かつ実体験式の演示・展示実験および工作を楽しみ、多大な成果が得られた。なお、姫路会場大会は1998年から毎年開催しており、右の新聞記事のように未来の科学者を育てる事業として、地域に根ざしている。

◆次は私が伝えたい
 8月の終わりに、姫路の兵庫県立大学で、科学の祭典がありました。たくさんの高校、大学、そのほか研究員のお兄さん、お姉さん、先生方が、大変な思いをして事前に準備してくださっていました。私は、化石のレプリカ作りや偏光板で作るブラックウオール、ドラム缶つぶしなどがおもしろかったです。また親切に教えてくださったとても分かりやすくて、ほかのブースもよかったです。ありがとうございます。毎年この祭典を楽しみにしているのだから、これからもずっと続けてください。私も高校生になってから、今度は私が子供たちに科学の面白さを伝えていければいいな。(佐用 三日月、小6女)

神戸新聞 2005年9月8日朝刊 投稿欄

3 参加者

1日目(8/11)	854人
2日目(8/12)	1,462人
合計	2,316名

※スタッフ参加者を含む

4 その他

大会案内チラシ…中・西播磨地区の小学生(約6万名)一人一人に配付し参加を呼びかけた
 掲載記事…新聞・ミニコミ誌各社に大会の告知記事の掲載依頼を行った

神戸新聞ミニコミひめじ・西はりま2012年7月第329号
 リビング姫路2012年7月28日(412号)
 神戸新聞朝刊2012年8月12日
 朝日新聞朝刊2012年8月12日(下の記事)
 神戸新聞朝刊2012年8月12日
 毎日新聞朝刊2012年8月12日(右の記事)

理科の世界楽しさ知って



火おこしを体験する子どもたち=姫路市書写

理科の楽しさを知ってもらおうと、「青少年のための科学の祭典」が11日、姫路市書写の県立大学姫路書写キャンパスであった。理科関係の部活動に所属する高校生や教員ら約180人が約40のブースに分かれ、来場した小中学生らに実験や工作、生物観察などの手ほどきをした。

県立姫路西高校2年生が担当するブースでは、洗剤、洗濯のり、水などを材料に、子どもがシャボン玉を膨らませ、シャボン玉の中に入れてもらった子どもたちは、シャボン玉を膨らませ、杉の板に木の棒を押しつけて、摩擦で火をおこす体験では、火おこしを体験する子どもたち=姫路市書写

姫路・科学の祭典
 祭典は夏休み中に県内7カ所で開かれており、播磨地域では12日(土)同キャンパスと、加古川市加古川町寺家町の県立東播磨生活創造センターである。午前10時~午後4時半、入場無料。

シャボン玉作り・自分で火おこし…

科学って楽しい!!



実験や工作 姫路で祭典

シャボン玉にすっぽり

でしたと、各ブースを興味深そうに見回っていた。祭典は、子どもが理科の楽しさを体験する機会を提供している。播磨地方では、加古川市の県立東播磨生活創造センター(かこ)でも同時開催され、時間も会場とも午前10時~午後4時半、入場無料。

大きなシャボン玉の中に入っただけの子も=県立大姫路書写キャンパスで